

2026年 2月13日

京成電鉄株式会社

成田空港アクセスの更なる強化に取り組めます

新型有料特急の車両デザインイメージの一部公開と

成田スカイアクセス新線整備計画の検討着手について

成田空港においては、第3滑走路新設等の機能強化が進められておりますが、京成電鉄(本社:千葉県市川市、社長:天野 貴夫)では、これに伴う中長期的な需要増加等に対応するため、輸送力の増強や更なるお客様の利便性向上に取り組んでおります。

都心から成田空港までの所要時間については、現在スカイライナーが、日暮里駅から空港第2ビル駅を最速36分で結んでおります。また、アクセス特急が押上駅から空港第2ビル駅を概ね50分台で結んでおりますが、新型有料特急の運行開始により、同区間を最速30分台前半で結びます。今般、この新型有料特急車両におけるデザインイメージの一部を公開いたします。

更に、新型有料特急運行開始後の輸送力増強について検討する中で、成田空港周辺(成田湯川駅～成田空港駅)の単線区間の複線化に合わせ、スカイライナーおよび新型有料特急専用の成田スカイアクセス新線整備(複々線化)計画について、検討に着手することといたしました。

本件の概要は、次頁の通りです。

成田空港アクセスの更なる強化に対する取り組みについて

1. 新型有料特急車両のデザインについて

押上駅と成田空港駅を結ぶ新型有料特急については、2028年度の運行開始に向けて車両設計を進めております。この度、車両外観デザインイメージの一部を公開いたします。

また、新型有料特急の最高速度は160km/hを予定しておりますが、その運行形態や愛称等の詳細につきましては鋭意検討中であり、デザインのコンセプトや全貌を含め、今後、段階的に発表してまいります。

この新型有料特急の運行開始により、押上駅から空港第2ビル駅までの所要時間は、現行アクセス特急の概ね50分台から最速30分台前半に大幅に短縮され、空港アクセスの輸送力増強とともに利便性の向上につながります。



2. 成田スカイアクセス新線整備(複々線化)計画の検討着手について

わが国の国際競争力向上等に必要な国家プロジェクトと位置付けられている成田空港の機能強化に対応し、将来にわたる訪日外国人の増加等、中長期的な需要増加に的確に対応するため、成田スカイアクセスの抜本的な輸送力増強およびサービス向上策について検討しております。

この度、輸送需要が拡大基調にある北総線沿線地域に対する輸送サービスを確保しつつ、増加する空港需要に応えるためには、成田空港周辺(成田湯川駅～成田空港駅)の単線区間の複線化に合わせ、スカイライナー及び新型有料特急専用の新線(複々線)を整備し、線路容量を拡大することが必要との判断に至り、その検討に着手いたしました。

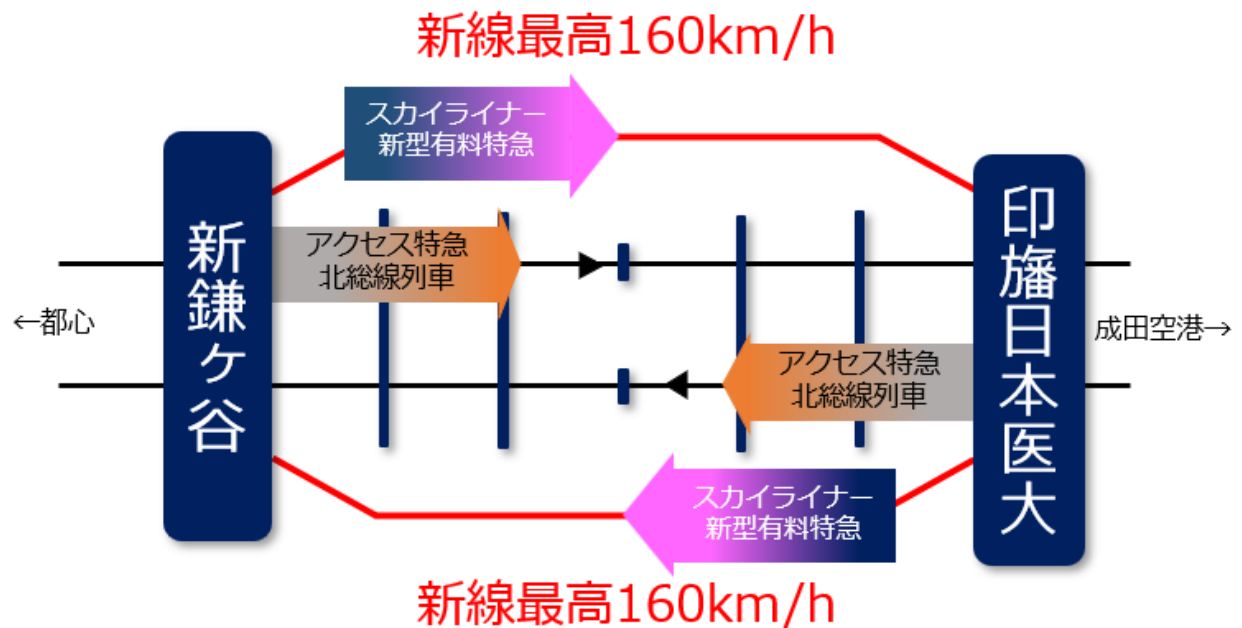
この複線化および新線整備(複々線化)計画は、訪日外国人の増加に伴うオーバーツーリズムの影響を受けるスカイライナーやアクセス特急等の混雑緩和にも資する施策であり、このような観点からもその実現に努めてまいります。

なお、検討している新線整備(複々線化)計画は以下の通りですが、大規模な投資が必要であり、その回収には長期間を要することから、その実現に向けて、国、千葉県、成田国際空港株式会社などの関係者とともに、整備手法や費用分担等について、協議・調整を進めてまいります。

新線整備(複々線化)計画案は、次の通りです。

(1)新線整備(複々線化)区間

新鎌ヶ谷駅～印旛日本医大駅(約20km)



(2)整備効果(例)

新鎌ヶ谷駅～印旛日本医大駅(約20km)

- ・スカイライナー、新型有料特急および一般列車(アクセス特急および北総鉄道が運行する普通列車)の運行本数増加
- ・都心と成田空港間の所要時間短縮

スカイライナー

日暮里駅～空港第2ビル駅 最速36分 → 30分台前半へ

新型有料特急(2028年度運行開始予定)

押上駅～空港第2ビル駅 最速30分台前半 → 20分台後半へ

以 上